

J E C の源流と歴史的遺産 1 2

- 結び -

一宮基督教研究所 安黒務

J E C の神学的特徴：歴史神学の視野から、そして組織神学の視野から

一宮基督教研究所の使命の一環として紙面をいただき、この一年間「J E C の源流と歴史的遺産」のシリーズを連載させていただきただけでしたこと、そしてJ E C とJ E C を越えた多くの方々、多くの教会から「一宮基督教研究所」の働きに対する支援献金や資料購入の依頼を受けてきたことに心より感謝申し上げます。また意図したわけではありませんが、この三月に連載の終了にあわせるかたちで「**J E C の組織神学書**」とも言うべき、拙訳の「**キリスト教神学**」がいのちのことは社より出版されることにも神さまの不思議な導きを感じています。

さてここまで、K B Iでの「**福音主義神学**」の講義の蓄積をベースにして、二千年の教会史における「J E C の源流と歴史的遺産」を**神学的・教理的要素、歴史的要素、社会的・文化的要素**において見てまいりました。これらの記述を通しJ E C の立体的な把握を得る一助としてくだされば感謝です。今回は“**歴史神学の視野から**” J E C の神学的特徴を眺望しましたが、また機会がありましたらK B Iでの「**組織神学**」の講義の蓄積をベースにして“**組織神学の視野から**” J E C 神学的特徴についてご一緒に学べたらと思っています。

J E C とエリクソンの神学：良き伝統を継承・深化・発展させる軌道の敷設

J E C 50周年記念誌小論文として「私は**21世紀におけるJ E C の神学のあり方・方向性**というものを真剣に考慮していくとき、“**ミラード・J・エリクソンの神学**”を無視することはできないと思います。私の提案としてですが、『エリクソンの神学をJ E C の“**神学的座標軸**”と**位置づけ**、その下にJ E C の過去と現在の霊的遺産を適切に**整理し**、そして今後展開してゆくであろう種々のムーブメントを適切に**関係づける**』というかたちで、J E C の流れの中のよきものを**継承・深化・発展させていく軌道**を敷設することができると思います。』と書かせていただきました。

毎年この季節にK B I神学生の卒業論文を読ませていただき感謝していますことは、「人間論」「聖化論」「教会論」等の卒業論文において「エリクソンの組織神学の学びを“**神学的座標軸**”とし、その座標軸の中に神学生個々人の**問題意識**や**所属教派の理解**を**位置づけ**、クリティカルに**評価し**新たな**提言をする**力が神学生の間に増し加わっている」ことです。神学生の皆さんにこのような力が身につけていることは、神学生それぞれが所属している教派の伝統のうちの良きものを**継**

承・深化・発展させていく力がついていることを証ししています。私は神学生に「皆さんは、それぞれの**所属教派の未来を担う人々**なのですから、手抜きをせずに、世界的スタンダードな組織神学書である、このエリクソンの『キリスト教神学』をしっかりと学んで、**バランスのとれた神学的な座標軸**を身につけてください。」と常にチャレンジし、毎月のように「エリクソン神学」の各論におけるレポートを提出してもらっています。最初は慣れない人もあり、不平不満もありましたが、今ではそれぞれの力量に応じ、自発的かつ積極的にかなり**充実したレポート**が提出されるようになってきています。神学生がこの**学びの意義と真価**に目覚めてきている証拠です。

K B Iとといいますと、これまでは「ペンテコステ・カリスマ系で**伝道熱心**ではあるが、**神学教育**では見るべきものがない。」というのが、福音主義神学会や保守的福音派の人々の誤った評価でありました。しかし、今回のエリクソン博士の書籍翻訳と講演会を契機として「K B IとJ E Cとは、ペンテコステ・カリスマ的経験にオープンでありつつ、**エリクソン博士の『キリスト教神学』を座標軸にする群れ**である」ことが公けのものとなり、**神学の内実**においても高い評価を受けつつあります。

J E Cはまもなく「**日本福音同盟** (J E A)」に加盟しようとしています。そしてその先には、日本福音同盟の独立した神学研究部門ともいえる「**日本福音主義神学会** (J E T S)」への入会が視野に入ってきます。私には夢があります。それは、「将来J E CやK B I卒業の教職者の中から**福音主義神学会**で活躍し**貢献**していく**多くの人材**が育っていくこと」です。それは**神学と実践の両面におけるバランス**を重んじるJ E CとK B Iのビジョンにもかなうことです。“雨後のたけのこ”のように新しい神学校が作られては消え、消えては作られる、神学校の“サバイバル(生き残り)”競争の時代において、今K B Iは**宣教のパス**(情熱)に満ちた大田院長の下、諸教師方とともに**充実した神学のロゴス**(論理)を提供する神学教育を目指してまい進しています。ペンテコステ・カリスマの経験にオープンでありつつ、このように神学の面でも**充実しバランスのとれた神学校**を日本では他に見出すことはできません。

“**継続神学教育機関**”としての一宮基督教研究所の新たな挑戦は続きます

私は今後、邦訳されたエリクソン博士の「**キリスト教神学**」が、K B Iにおいてだけでなく、J E Cの各教会の**聖書研究会**や信徒リーダー・C S奉仕者の方々の**メッセージ準備**に、また「**組織神学的瞑想**」として信徒の皆さんの**個人的なデポジション**において用いられていくことを願っています。J E Cの総会においては、我喜屋師・道本師・富浦師の歴代の理事長が、スウェーデン・オレプロ・ミッション(現在のインターアクト)の**良き伝統の継承**を語ってこられました。私

もまた、オレブ口の宣教師が開拓され、JECの第一世代の教職者の先生方が築きあげてくださったJECの群れ、またKBIの学び舎が、**JEC・KBIの神学の集大成**としての「**キリスト教神学**」を通して伝統の中の良きものを**継承・深化・発展**させていくことを切に祈っています。「**一宮基督教研究所**」の機能もその線上にあります。教会でもなく、聖書学校でもなく、宣教団体でもありませんが、神さまからの**特別な召しと賜物**をいただいている**ユニークな働き**である信じ、JECとKBIの“**継続神学教育機関**”としての一宮基督教研究所の新たな挑戦は続きます。引き続き、この小さな働きを覚えて祈り支えていただければ感謝です。

ⁱ 「**日本福音主義神学会**」...1970年4月の創立以来、日本福音主義神学会は聖書信仰に立つ福音主義諸教会の健全な成長と発展を願い、その神学研究を助け、相互の交わりを図っています。活動は、西部・中部・東部の各地区で**春季と秋季の研究会**、隔年に**全国研究会議**、学会誌「**福音主義神学**」が毎年発行されています。教職者・信徒・神学生それぞれの立場で入会ができます。希望者は安黒までお問い合わせください（推薦人にならせていただきます）。